

藤原智美氏の自己紹介 ～「全国紫明クラブ講演」特別バージョン



1955年福岡県福岡市生まれ。1979年明治大学政経学部政治学科卒(5年間在学)。高校、大学と演劇活動をつづけた。明治大学では劇団「活劇工房」(現在も本校で活動中)を創設し、第一回の作・演出を手がける。その後、「劇都市」というテクノバンドとコラボレーションなどを行う劇団を創設し、学外公演を卒業後、二年ほどつづけた。が、スタイルがあまりに早すぎて時代に理解されず空中分解。その後、就職せず(就職できず)、フリーランスのライターとして週刊誌、月刊誌で食いつなぐ。バブル時期はコピーライターにも手を伸ばした。

1990年 中編小説「王を撃て」を『群像』に書き小説家となる(正確にはなれるかもしれないと思う)。

1992年 二作目の「運転士」で第107回芥川賞受賞。これで小説家になったと思ったが、最近になって勘違いだったのかもと思ひ直す(まだまだ、なれていない!と感じる今日ごろ)。

1993年 明治大学入学式で記念講演。武道館という大きな会場での講演にびびる。

その後、ノンフィクションも手がけ、『家をつくる』ということ」「暴走老人!」などヒット作も。講演、テレビ出演なども少しずつこなして現在にいたる。

ちなみに昨年は、NHK「視点・論点」「ああ!言い違い、すれ違い」「新聞を読んで」「週刊ブックレビュー」などに出演したが、単行本の執筆に苦勞し、一冊も出版できず。

しかし今年は、3月にノンフィクションとフィクションのカップリングという新しい試みの本「骨格標本になった人類学者」(仮題)を集英社から、また同月にネット時代の文章術「書くということ」(仮題)をプレジデント社から出版決定。その他、長編小説にとりかかり、すでに雑誌発表した短編数編を推敲し単行本化する予定。

最後に私の将来の夢なのですが……あ、いえ、もう55才で、すでに今が「将来」に到達しておりまして、日々、精一杯、現実を生きるのみでした。